

無理はできる間にしかできない

全米を沸騰させたアメリカ大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手の熱いシーズンが終わりました。最終戦で46号先頭打者本塁打を打ち勝利に貢献。誰もが認める彼の活躍の裏には、想像を超える努力があります。そのことを誰よりも知っているのは、シアトル・マリナーズで数々の記録を打ち立てたイチロー氏でしょう。彼が大谷選手に寄せたコメントの一部に「無理はできる間にしかできない。」とありました。

食べ物に旬があるように、人にも旬というものはあるのでしょうか。人生を四季になぞらえれば、種まきの冬、開花の春、成長の夏、実りの秋と、人それぞれに春夏秋冬の時節があり、「論語」にある孔子の言葉にも次のようにあります。

「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。

六十にして耳順（したが）ふ。七十にして心の欲する所に従へども、矩（のり）を踰（こ）えず。」

これに当てはめれば、大谷選手は「三十にして立つ」前でしょうか。現状に甘んじることなく、さらなる進歩を目指す後輩に、イチロー氏が「論語」にも通じる花向けの言葉を贈りました。

「アスリートとしての時間は限られる。考え方はさまざまだろうが、無理はできる間にしかできない。2021年のシーズンを機に、できる限り無理をしながら、翔平にしか描けない時代を築いてほしい。」

大谷選手はメジャー1年目の開幕直前、誰にも相談できない悩みをイチロー氏にだけ打ち明けたといえます。開幕前のオープン戦で、日本では通用した「二刀流」がメジャーでは通用しないことを思い知り、大谷選手は自信を無くしていました。そんな彼に、イチロー氏は「自分の才能や、やってきたこと、持っているポテンシャル、そういうものをもっと信じた方がいいよ。」と伝えたそうです。この言葉をきっかけに、大谷選手の快進撃が始まりました。大谷選手は「自分の才能とは何か」を考え続け、出てきた答えは、「努力して上手くなること」自分は最初から野球がうまかったわけじゃない。自分より野球のうまい選手はたくさん見てきた。それなら、もっと努力して上手くなればいい。もっと努力して勝てばいい。その努力の結果の「二刀流」なのです。

海を渡ったときから、無理をするのは承知の上。野球の天才ではないから、無理をしても努力をする。これが大谷選手の時間の使い方なのでしょう。有限な時間をどう使うのかは人それぞれです。けれど、無理ができる時間は限られています。



伝統文化体験（華道）

2年生を対象に伝統文化体験（華道教室）を実施します。当日は、「未生流」京都支部長、北尾登志甫様を講師としてお招きし、ご指導いただきます。全員が「生け花」を体験します。終了後は、生けた花を持ち帰りますので、ご家庭の花瓶や花器に生け直していただけます。楽しみにしてください。



学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」
～発信力・行動力を身につけ、
自己肯定感を得られる生徒の育成～

11月の主な行事

- 1日 修学旅行（3日目）
- 9日 検尿（10日も）
- 10日 預り金引落とし日
- 15日 生徒会役員改選
- 17日～期末テスト1週間前
- 18日 （2年）高校出前授業
- 24日～2学期期末テスト
- 29日 （2年）伝統文化体験